

東日本大震災からの復興に向けた当行の取り組み (平成23年12月～平成24年7月)

早期の事業再建に向けて復興応援策を提案

当行では、被災された取引先の早期の事業再建に向けて、地元企業応援部と営業店が、徹底した訪問活動を通じて取引先の被災状況とニーズに合った復興応援策を検討・提案しております。

政府系金融機関との協調融資のほか、販路拡大へのビジネスマッチング、DDS(既存債務の劣後ローン転換)やABL(動産担保融資)等の手法も活用し、事業再生を強力に応援しております。

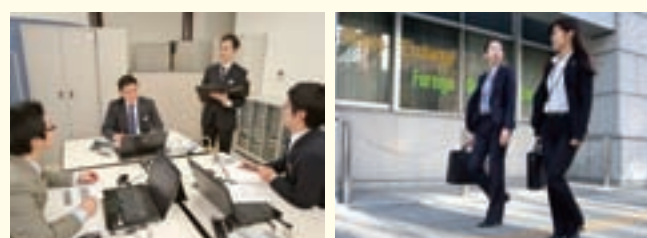


被災したいちご生産の大型ハウス再建を支援 水産加工業取引先の販路拡大を支援

復興応援担当の地元企業応援部を60名体制に強化

当行は、復興応援強化のため、平成24年4月に地元企業応援部を20名増員して60名体制とし、本店のほか石巻・佐沼・古川・岩沼の各分室に、復興融資と事業再生の担当者を常駐させております。

震災復興に向け、平成24年1月に「みやぎ応援ファンド」、同年3月に「生活再建応援住宅ローン」を発売するなど、震災後から平成24年3月までに被災者向けの新規融資額は418億円となりました。



石巻・佐沼・古川・岩沼にも支援拠点を設置 取引先への訪問を強化

きらやか銀行と連携し「みやぎ復興感謝祭 海の市」を開催

当行ときらやか銀行は、平成23年6月に震災復興支援に向けた連携協定を締結し、県境を超えた復興応援に取り組んでおります。

平成24年4月に、両行は山形市で「みやぎ復興感謝祭 海の市」を合同開催し、震災で被害を受けた宮城県沿岸部の取引先5社が、水産加工品や海産物調理品を販売しました。震災を乗り越えた宮城県の「海の幸」を山形県の方々にお届けし、好評を博しました。



宮城県沿岸部の当行取引先5社が出店 宮城と山形の交流を促進

津波被災地で巡回型移動店舗「どこでも窓口」の営業を開始

当行は、津波被災地や店舗移転統合した地域の皆さまの利便性を回復・確保するため、トラック荷台に簡易窓口設備とATMを搭載した巡回型移動店舗「どこでも窓口」を新たに導入しました。

「どこでも窓口」は、平成24年5月から南三陸町(志津川・歌津地区)と石巻市(雄勝地区)で巡回して営業を行っております。今後は店舗移転統合を行った地区での営業も検討してまいります。



簡易窓口で預金取引を受付 津波被災地を巡回営業する「どこでも窓口」

平成23年
3月11日
震災発生

平成23年 12・平成24年 1月

復興ニーズを的確に把握し復興応援策を提案 お取引先の一日も早い復興を支援

復興へのあゆみ VOL.1

- 平成23年 12月1日 被災された取引企業の販路拡大支援のため、「東京ビジネス・サミットin神戸」に当行取引先4社と参加。「みやぎ応援キャンペーン」で、所定の取引をいただいた方に抽選で取引被災企業10社の名産品をプレゼント。
- 12月5日 津波被災地・女川町の仮設合同庁舎に出張所窓口を新設。
- 12月13日 公益信託「まちづくり基金」が震災復興に取り組むまちづくり団体等9先へ総額70万円の助成を決定。
- 平成24年 1月4日 復興資金需要に対応する「みやぎ応援ファンド」(事業融資枠200億円)を創設。
- 1月13日 震災で営業休止した高清水出張所が築館支店内に移転のうえ全営業を再開。
- 1月17日 融資条件等を緩和した震災復興資金融資「サポートみやぎアドバンス」を販売開始。
- 2月22日 仙台銀行ビジネスクラブが交流会を開催し、被災された企業等へビジネスマッチング機会を提供。
- 2月27日 八幡町支店及び三本木支店を近隣店舗内に移転し、一部職員を復興応援業務へ再配置。
- 2月28日 店舗外ATM「みやぎ生協榴岡店出張所」を新設し、被災移転した宮城野支店のお客さまの利便性を確保。

平成24年 2・3月

店舗及び本部組織の再編を実施 復興応援に人員を再配置し、営業力を強化

- 3月1日 宮城県、県内金融機関等で構成する宮城県震災復興金融協議会に参加し、「復興へ頑張ろう!みやぎ金融応援キャンペーン」を実施。(4月30日まで)
- 3月21日 超長期住宅ローン「生活再建応援住宅ローン」を販売開始し、被災者の住宅再取得を支援。
- 3月26日 鳴子支店及び米川支店を近隣店舗内に移転し、一部職員を復興応援業務へ再配置。
- 3月30日 震災後の被災者向けの新規融資実績(累計)が400億円を突破。



女川町仮設合同庁舎出張所を新設 交流会でビジネスマッチング機会を提供

平成24年 4・5月

きらやか銀行と経営統合に向け最終合意 両行が復興応援に向けてさらに連携

復興へのあゆみ VOL.2

- 4月1日 地元企業応援部を60名体制に増員し、石巻支店及び佐沼支店に分室を新設。
- 4月26日 きらやか銀行と共同持株会社設立による経営統合へ最終合意。
- 4月28日 きらやか銀行と合同で「みやぎ復興感謝祭 海の市」(山形市)を開催。
- 5月14日 東京支店を本店営業部内に移転し、一部職員を復興応援業務へ再配置。

移動店舗「どこでも窓口」 名称に込めた当行の思い



移動店舗の名称選定にあたっては、震災発生直後の平成23年4月に当行へ入行した新入行員32名から公募を行いました。様々な名称案が応募されたなか、共通していたのは「ふるさと復興のために、愛によって結ばれたたすけあいの気持ちを、どこでも届けたい」という強い願い。この新入行員の気持ちを表す名称として、「どこでも窓口」は誕生しました。また、車体外装のメインデザインは、当行のコーポレート・カラー「グリーン」を組み合わせ、沿岸部の復興を願う「大漁旗」をイメージしました。

この名称選定とデザイン制作には、持株会社名称・マーク選定でお世話になった東北芸術工科大学・中山ダイスケ教授に全面的にご協力いただきました。

中山ダイスケ教授(写真右)によるプレゼンテーション

